

V306a X線分光撮像衛星 XRISM の科学運用の現状（3）

小川翔司, 金丸善朗, 林克洋, 福島光太郎, 吉田鉄生 (JAXA), 寺田幸功, 田代信 (埼玉大, JAXA), 高橋弘充, 水野恒史, 深沢泰司 (広島大), 信川正順 (奈良教育大), 宇野伸一郎 (日本福祉大), 中澤知洋, 大宮悠希, 大熊佳吾 (名古屋大), 内山秀樹 (静岡大), 久保田あや (芝浦工業大), 勝田哲, 本上侑吾 (埼玉大), 寺島雄一, 志達めぐみ, 新居田祐基, 高木利紘 (愛媛大), 山内茂雄, 太田直美, 白木天音, 鈴木那梨 (奈良女子大), 山田智史 (理化学研究所), 坪井陽子, 米山友景 (中央大), 内田悠介 (東京理科大), 江口智士 (熊本学園大), 谷本敦 (鹿児島大), 善本真梨那 (大阪大), 飯塚亮, 内田和海, 海老沢研, 渡辺伸 (JAXA), Matt Holland, Tahir Yaqoob, Chris Baluta (NASA), Michael Loewenstein (NASA, UMD), Eric Miller (MIT)

2023年9月7日に打ち上げられたX線分光撮像衛星(XRISM)の運用は、衛星搭載機器の機能確認等を実施するコミッショニング・初期較正期、XRISMサイエンスチームによって選ばれた天体の観測を行う性能実証期を経て、2024年9月からは世界中の研究者からの観測提案に基づいて天体観測を行うGeneral Observer(GO)期に入った。我々科学運用チームはXRISMの科学成果を最大限に引き出すために、ToO観測への対応を含む観測スケジューリング、観測データの高速処理およびアーカイブ処理とその結果の検証、日々の即時解析データによる検出器の健全性確認、X線突発天体の検出と解析、研究者向けウェブサイトの保守・管理、ヘルプデスクの運用などの活動を行っている。これらの活動は、衛星運用および検出器開発チーム、NASA/XRISM SDC、GOFやESA/ESACの地上ソフトウェアチームやユーザーサポートメンバーと連携して進めている。本講演ではXRISMの科学運用について、これまでのGO期のステータスをまとめ今後のプランを報告する。